

改定蒲田駅周辺地区グランドデザイン骨子（案）【 概要版 】

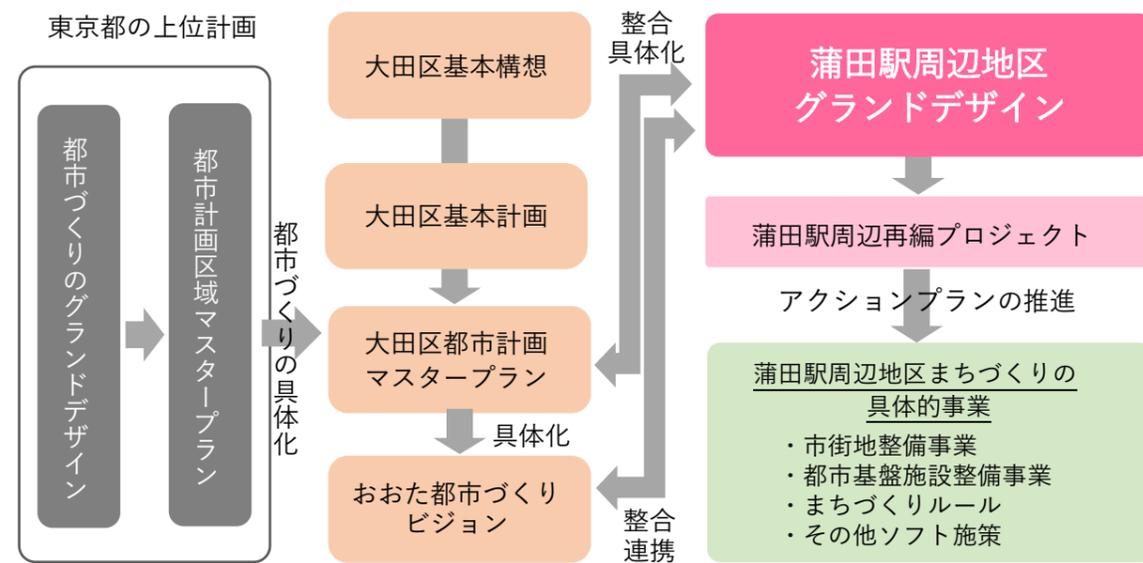
1. まちづくりと蒲田駅周辺地区グランドデザイン

蒲田駅周辺地区は、内包する課題や周辺状況の変化に対応しながら、将来像を掲げ、実現に向けたまちづくりを進めていくことが必要です。

まちづくりは、都市計画や産業、観光、文化、環境保全など幅広い分野にわたります。グランドデザインでは、地区の特徴を捉え、まちづくりの課題を踏まえながら、まちなかの目指す姿を描きます。この姿の実現に向けて、地域住民・事業者・行政が一体となってまちづくりを進めていくための基本方針・目標・方策を明示していきます。

[位置づけ]

区全体の都市計画を定める基本計画である「大田区都市計画マスタープラン」における蒲田駅周辺地区の地域別方針を具体化する計画。



2. まちづくりの経緯

- 昭和 22 (1947) 年 大森区と蒲田区が合併し大田区が誕生
- 昭和 46 (1971) 年 蒲田駅西口、蒲田駅東口の戦災復興土地整理事業換地完了により整備された都市基盤に伴い、周辺の建物整備が進む
- 平成 22 (2010) 年 「蒲田駅周辺地区グランドデザイン」の策定
まちづくりの更なる進展
- 平成 24 (2012) 年 京浜急行線連続立体交差事業の完了
- 平成 27 (2015) 年 京急蒲田西口駅前地区第一種市街地再開発事業の完了
蒲田駅東口駅前広場、地下自転車駐車場 都市計画決定
国家戦略道路占用事業の認定「さかさ川通り」
- 平成 30 (2018) 年 蒲田駅西口駅前広場初動期整備の完了



京浜急行線連続立体交差事業の高架化



京急蒲田西口駅前地区第一種市街地再開発事業



国家戦略道路占用事業の認定「さかさ川通り」

3. 蒲田を取り巻く状況の変化

<社会的な動き>

- ・ライフスタイルの多様化
- ・デジタル化や自動化などの急速な技術革新に伴う産業構造の変化
- ・東日本大震災や近年の風水害などによる、防災意識の高まり
- ・「居心地が良く歩きたくなるまちなか(国土交通省)」の提言
- ・新型コロナによる「新しい生活様式」への移行に関する提言

<蒲田駅周辺地区のまちの変化>

- ・周辺都市で大規模な商業施設の開業
 - ・小売店舗数や売場面積は減少傾向
 - ・事業所や工場が減少し、集合住宅が増加傾向
 - ・昼間人口(就業者など)が横ばい傾向
 - ・夜間人口(居住者など)が増加傾向
 - ・外国人人口が急増
 - ・放置自転車は減少傾向
- など

4. 改定の背景・目的

蒲田駅周辺地区のまちづくりは着実に進展しています。一方で、建物等の老朽化や線路を挟んだ市街地の分断など、解決すべき課題が今なお残っており、状況の変化に応じた柔軟なまちづくりを進める必要があります。またこの10年の間に新たに策定された上位計画等との整合を図ることや、蒲田を取り巻く状況の変化に対応していくことも必要です。

大田区を中心とする蒲田においては、変化し続ける社会やまちの状況に対応したまちづくりを推進することにより、首都圏の広域的な拠点としての役割を担うとともに、蒲田が将来に渡って持続的に発展していくために、グランドデザインの改定を行います。

5. 蒲田に求められる役割

新空港線や「HANEDA INNOVATION CITY (ハネダ イノベーション シティ)」(旧名称:羽田空港跡地)の進展により新たな広域都市軸(新空港線軸)が形成され、東京都心や羽田空港との連携が強化されるなか、東海道軸と新空港線軸の結節点に位置する蒲田には『**重要な地域の拠点**』としての役割が求められています。

拠点としての役割を果たすために、交通結節点としての利便性を活かすとともに未来のライフスタイルへの対応や先端技術の活用も意識しながら、『**広域的な拠点性を高める機能の強化・充実**』と『**鉄道沿線の日常的な生活を支える機能の強化・充実**』を両輪で進めていくことが必要です。

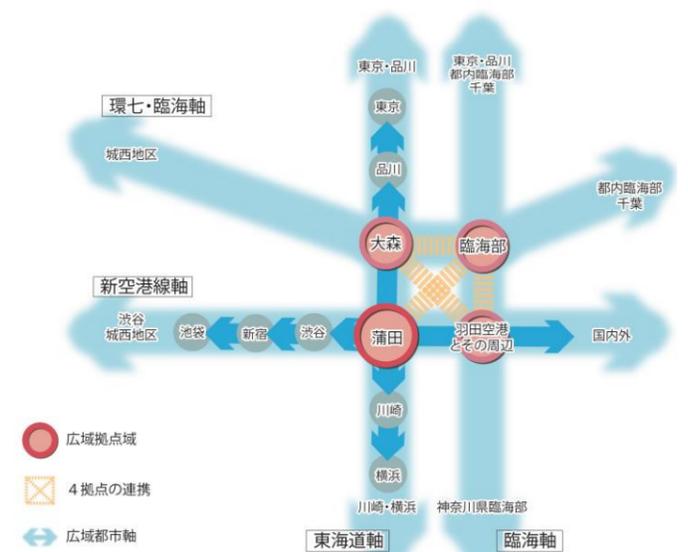


図 東京圏における蒲田の位置づけ

6. まちの将来像

蒲田を取り巻く状況の変化や求められる役割を踏まえて、まちの将来像を示します。

～まちの将来像～

にぎわいあふれる多文化都市、 誰もが安心して気持ちよく過ごせる人にやさしい蒲田

時代に応じて求められる新しい技術や環境が整い、利便性高くゆとりある空間が多様な文化や習慣を受け入れると共に、住む人・働く人・学ぶ人・訪れる人などが多彩な活動を展開して、いざい豊かな魅力を生み出しています。この魅力に惹かれて、国内外から多くの人々が集まり、まちは活気づき、にぎわいあふれ、持続的に価値を高め発展しています。



多言語化などの多様な人々のニーズに応じたサービスが充実した、蒲田らしい商業が連なる商店街や歩行者にとってゆとりある道路で、住民や観光客は買い物や飲食を楽しんでいる。

～将来像が実現したまちの風景（イメージ）～

歩いてても自転車に乗っても通行しやすい道路や、各所に創出された四季を問わず過ごせるパブリックスペースで、住民や行き交う人々は足を止め、様々な言語で語り、文化を持ち寄っている。



先端技術が取り入れられ、容易に求める情報や移動手段が手に入る駅前や業務環境を支える駅周辺の建物やパブリックスペースで、働く人々が仕事や打合せ、商談をしている。

環境が整った様々な空間で人々が多様な活動を展開することにより、まちのにぎわいや価値が創出されています。

7. まちの目指す姿と、まちづくりの基本方針と目標

まちの将来像と求められる役割を踏まえ、将来の具体的なイメージとして、3つの目指す姿を描きます。3つの目指す姿が互いに相乗効果を生み出すことにより、まちの将来像が実現されます。また、まちの目指す姿を具現化するための方向性を示すものとして基本方針を定めます。基本方針に基づき、具体的な13の目標を設定します。

目指す姿

文化・交流・にぎわいを生み出す 多彩な「活動」が創出されるまち

基本方針1 活動の創出

商店街における商業の活性化に向けた取り組みはもとより、蒲田における商業・業務の活性化に資する機能や暮らしの場として生活を支える機能等の誘導及び蒲田らしい魅力の発掘・創出・発信などを進めていきます。

様々な目的で蒲田を利用する人々が、互いの文化を尊重し、出会い、交流する機会の創出を行います。

1. いきいき元気な商業のまち
2. 産業やビジネスが育つまち
3. 多様な人が快適に暮らせるまち
4. 国内外と繋がり、何度も訪れたいまち

基本方針

地域の価値を高める 「空間」が充実したまち

基本方針2 都市空間の充実

羽田空港等との連携強化や、駅とまちのつながりの向上を考慮しながら、東西自由通路や駅前広場等の整備による交通結節機能の強化を行います。

老朽化した建物の更新や既存ストックの有効活用、快適な歩行者空間の整備、車両や施設の適切な誘導による交通環境の確保など活動の場となる空間の充実を図ります。

5. ゆとりを感じる利便性の高い駅と駅前広場
6. 歩いてめぐり楽しめるまち
7. 様々な手段で快適に移動できるまち
8. 建物の更新や活用が進むまち

目標

安心して快適に過ごせる 「環境」が整ったまち

基本方針3 環境の向上

災害対策の拠点として減災や災害発生時の早期復旧に向けた備えを強化するとともに、関係者の連携した防災活動により、まちの安全性を高めます。

誰もが分かりやすく・移動しやすい都市環境の整備や、美化活動・防犯活動及び緑化や省エネルギー化などを進めることにより、まちの快適性を高めます。

9. 災害に強いまち
10. 誰もが使いやすく人にやさしいまち
11. 個性と魅力のあるまち
12. 自然を感じ、環境にやさしいまち
13. 安全・安心なまち